

目標	指標		令和6年度	令和7年度	令和7年度の評価・課題	(目標数値) 令和10年度	備考 (目標設定の考え方)
1 県内の図書館との連携と協力の推進	① 相互貸借(協力貸出)冊数	目標値	11,000冊	11,000冊	協力貸出で市町村立図書館・図書取次施設へ県立図書館の搬送便等によって4,321冊を提供しており、昨年度の4,435冊より若干減ったものの全市町村へ資料の提供はできている。県立学校等の学校図書館へは県庁の逡送便等を利用して計3,031冊を提供したが、昨年度と比較すると1,665冊減少した。原因としては、高校の探求学習等で、直接インターネット情報や生成AIを利用する機会が増え、資料の利用が減っていることが考えられるが、様々なニーズに対応できるよう引き続き資料整備と物流体制を維持する必要がある。	11,000冊以上	R4の実績9,934冊を元に、毎年11,000冊以上
		実績値	9,530冊	7,652冊			
	② 横断検索による検索数	目標値	120,500件	122,500件	昨年度と比較してほぼ同じ検索数であり、目標値との差がさらに広がった。横断検索システムは、図書館同士が県内にある資料を互いに有効活用する上でも重要なことから、今後も維持していくことが必要と考える。	128,500件	R4の実績116,826件を元に、5年後に10%増加
		実績値	89,145件	89,427件			
	③ 県内公共図書館の県民一人あたりの個人貸出冊数	目標値	4.8冊	4.8冊	県内で前年度より個人貸出冊数が増加したのは40館中12館であった。このうち海士町中央図書館は、前年度3月に約1カ月休館したのち、令和7年4月にリニューアルオープンしたため、前年度より12.2%貸出冊数が増加した。一方、令和7年6月末に温泉津図書が閉館したこと、仁摩図書館、多伎図書館が空調工事のため約2カ月休館したこと等の影響により、県全体で見ると昨年度より県民一人当たりの個人貸出冊数は減少し前年度より3.7%減となった。	4.8冊以上	平成30年度実績4.81冊
		実績値	4.35冊 (2,764,076冊/ 635,184人)	4.26冊 (2,661,140冊/ 623,462人)			
2 県民や地域の課題解決に役立つサービスの提供	④ 遠隔地利用者図書貸出サービス(絵本バッグを含む)の利用件数	目標値	1,090件	1,190件	毎年10%増には至っていないが、利用件数としては微増している状況で貸出冊数でみると2,294冊であった。市町村別の利用状況を見ると、出雲市、益田市、大田市の順に多く、3市だけで510件の利用があった。相互貸借(協力貸出)と併用して、今後も直接来館しなくても最寄りの図書館(松江市を除く)を通じて県立図書館の資料を利用できることを県民に周知する必要がある。	1,600件	R4の実績893件を元に、毎年10%増加
		実績値	883件	919件			
	⑤ バリアフリー資料貸出冊数	目標値	3,500冊	3,600冊	アクセシビリティの観点から朗読CDや視覚・聴覚障がい者の音声ガイドや字幕つきDVD(上映可能な著作権処理済)を整備した。障がいのある方が郵送で資料を借りられる際の負担軽減になるよう日本郵便株式会社の特定録音物等発受施設の指定を受け、「来館困難者のための郵送等貸出サービス」を開始するとともに、PRを関係団体等に行い、該当の県民に届くよう周知を図った。引き続き関係機関等と連携して、サービスの周知が必要である。	3,900冊	R4の実績3,271冊を元に、大活字・点字・LL・DAISYの貸出冊数、毎年3%増加
		実績値	2,555冊	2,843冊			
	⑥ ホームページアクセス数	目標値	211,600件	217,900件	R7.11月から土・日・祝日の学習室利用についてインターネットでの予約制を開始したことでホームページにアクセスする方が増えたため、目標値には達していないが昨年度より増加したと思われる。また、公式Xによる情報発信についても、タイアップ展示やイベントの情報など週1〜2回の頻度でポストしている。R7.10月から「職員おすすめ本」として、司書職員がおすすめしたい本1冊を200字程度で紹介する企画を始め、HP、Xの両方で発信しており、今後も興味・関心を持ってもらえるような情報を発信していく必要がある。	238,000件	R4の実績199,485件を元に、トップページ閲覧数、毎年3%増加
		実績値	198,979件	205,553件			
3 子どもの読書活動の推進	⑦ 子どもの本に関する情報提供件数	目標値	15件	15件	HP等を活用して「おすすめしたいこどものほん」「書評雑誌に掲載された子どもの本」など、図書リストや書評による情報提供を実施した。このほか、林業課が発行している情報誌「みーも通信」や山陰中央新報発行「りびえーる」での絵本の紹介、また読売新聞の取材で推薦図書を紹介するといった他のメディアを活用した情報発信を行うことができた。引き続き、様々な機会を捉えて情報提供を実施する必要がある。	15件以上	図書リスト、書評などHPや新聞等による情報提供、毎年15件以上
		実績値	15件	17件			
	⑧ 学校司書等を対象にした研修会に対する図書館職員の満足度(5段階評価)	目標値	4	4	研修12回分、176名にアンケートを回答してもらった結果、研修会に対する満足度は4.72と平均4以上を超え、多くの参加者に概ね満足してもらえる結果となった。引き続き図書館職員の資質向上を図るため、オンラインなどの手法も取り入れ、適切な研修を提供する必要がある。	平均4以上	学校司書研修、専門研修、出前研修の満足度、毎年平均4以上
		実績値	4.83	4.72			
4 知の拠点として調査・研究の支援	⑨ レファレンス受付件数	目標値	10,000件	10,000件	生成AIの進展により、人々の情報探索行動が大きく変化している。図書館で行うレファレンスも軽微なものは減少し、高度化、細分化の傾向にある。デジタルツールを活用して従来の図書館資源をさらに活かすサービスや、AIには難しいコミュニケーションを必要とするレファレンスにより注力していく必要がある。	10,000件以上	毎年10,000件以上
		実績値	6,307件	5,464件			
	⑩ レファレンス協同データベースでの情報公開件数	目標値	50件	50件	「小泉八雲が下市で盆踊りを見たいが、これについて八雲の記述があるか」「八雲が松江から見える大山について記した文章はあるか」等のレファレンス事例を新たに34件公開した。また、調べ方マニュアルに「たたら製鉄について調べる」「菊竹清訓が設計した島根県の建築物について調べる」といった情報を6件、特別コレクションに当館所蔵の文書に関する情報を10件公開し、調査・研究等に役立つ情報を広く提供することができた。	50件以上	事例、調べ方マニュアル、特別コレクションの公開数、毎年50件以上
		実績値	50件	50件			
	⑪ しまねデジタル百科でのデジタル化資料公開点数	目標値	5点	5点	浜田城資料館で開催された企画展「絵図にみる浜田町人地の変遷」(R8.2/7〜5/24)に当館の資料が展示されたことにあわせ、「浜田城下町人屋敷図」を13点公開した。	5点以上	毎年5点以上公開
		実績値	5点	13点			
	⑫ 郷土資料の掲載・放映・出展件数	目標値	40件	40件	島根県立古代出雲歴史博物館が耐震改修工事等によりR7.4月から休館している影響等により件数が減少した。朝ドラ「ばけげ」の影響で小泉八雲とセツに関連した資料の利用が多くみられた。特に『西田千太郎日記』は、松江歴史館や小泉八雲記念館での展示や、NHKテレビ番組「歴史探偵」「ブラフミエ」の放映で利用されるなど利用が集中した。また、県立図書館では「ヘルン文庫」を設置し小泉八雲関係資料を収集していることから、ドラマの放映にあわせて展示を行った。引き続き郷土資料の有効活用や情報発信する必要がある。	40件以上	出版物やwebメディア等への掲載、テレビでの放映、展覧会への出展等、毎年40件以上
		実績値	50件	29件			

参 考 指 標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年比
入館者数	218,608人	198,190人	195,505人	▲2,685人
個人貸出冊数(来館・郵送)	295,081冊	236,520冊	216,250冊	▲20,270冊
受入冊数	13,356冊	12,424冊	13,728冊	1,304冊
蔵書冊数(館内用)	720,182冊	715,644冊	714,850冊	▲794冊